

事例番号:360039

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

妊娠 36 週 3 日 胎児心拍数陣痛図で基線細変動中等度、一過性頻脈あり

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 36 週 5 日

12:07- 胎動減少のため入院

胎児心拍数陣痛図で基線細変動が減少または消失し、一過性頻脈を認めず、遅発一過性徐脈を認める

4) 分娩経過

妊娠 36 週 5 日

14:04 胎児機能不全疑いで帝王切開により児娩出

胎児付属物所見 単一臍帯動脈

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:36 週 5 日

(2) 出生時体重:1900g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.23、BE -8.6mmol/L

(4) Apgar スコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 7 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 新生児仮死

(7) 頭部画像所見:

生後 4 日 頭部 MRI で左優位に上衣下出血および脳室内出血、両側大脳半球
および脳梁膨大部に広範な信号異常を認め低酸素性虚血性脳症
の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:診療所

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 3 名、小児科医 3 名、麻酔科医 1 名

看護スタッフ:助産師 1 名、看護師 1 名

2. 脳性麻痺発症の原因

- (1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠 36 週 3 日の当該分娩機関の外来受診以降、入院となる妊娠 36 週 5 日までの間に生じた一時的な胎児の脳の低酸素や虚血によって中枢神経系障害をきたし、低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考える。
- (2) 一時的な胎児の脳の低酸素や虚血の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。
- (3) 上衣下出血および脳室内出血が、脳性麻痺発症の増悪因子となった可能性がある。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

- (1) 妊娠 36 週 5 日、妊産婦からの電話連絡への対応(胎動が少ないという訴えに対し来院を指示)および入院時の対応(分娩監視装置装着、内診、超音波断層法)は、いずれも一般的である。
- (2) 妊娠 36 週 5 日の入院時における胎児心拍数陣痛図の判読(胎児心拍数波形レベル 3)および胎児機能不全疑いで帝王切開を実施したことは、いずれも一般的である。
- (3) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。

3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。
- (2) 新生児仮死のため、高次医療機関 NICU に搬送したことは一般的である。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、子宮内感染や胎盤の異常が疑われる場合、また重症新生児仮死が認められた場合には、原因の解明に寄与することがある。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

事例検討をすることが望まれる。

【解説】児が新生児仮死で出生した場合や重篤な結果がもたらされた場合は、その原因検索や今後の改善策について院内で事例検討を行うことが重要である。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

胎児期に中枢神経系障害を発症した事例について集積し、原因や発症機序について、研究を推進することが望まれる。

(2) 国・地方自治体に対して

胎児期の中枢神経系障害発症機序解明に関する研究の推進および研究体制の確立に向けて、学会・職能団体への支援が望まれる。